

授業改善推進プラン

	1年		2年		3年	
	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し方、聞き方に気を付けさせる。話し方では、語尾に「です。」「ます。」「を付けて、ていねいな言葉づかいで発表させる。相手の意見を聞いて、「同じです。」「違います。」等が言えるようにする。 読書を奨励し、文型を繰り返し復習し、文づくりがスムーズにいくようにする。 音読する時間を多く取り入れ、声を出したり聞いたりする時間を大切に作る。 漢字一文字ずつの意味をおさえながら、使い方の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話型・聴型を取り入れ、語尾に「です。」「ます。」「なぜかという」と「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せるようにする。 ○作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。 ○毎日音読し、発表させる。 ○宿題プリントや小テストを取り入れ、漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなことを考えながら、最後まで話を聞けるようにする。 ・「なぜか」と「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せたり、相手の意見を聞いて、「○○さんと同じで～。」「○○さんと違って～」等が言えたりできるようにする。 ・日常的に作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。 ・音読をすることで、言語力の向上を図る。 ・読書を奨励し、いろいろな文章や言葉に触れる機会を増やし、言語環境を整える。 ・漢字の意味や使い方を指導することで、漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し方・聞き方について、指導科だけでなく全教科で取り入れたり例を提示したりしながら日常的に指導し、進んで伝え合う力を高める。 ○話型、聴型を提示し、常に意識をして指導するようにする。 ○日記の宿題に取り組み、心を動かされたもの、伝えたいことを分かりやすく文で表現する力をつける。 ○毎日の家庭学習や授業の中で音読を取り入れるようにする。 ○読書週刊などを活用し、本に親しむ機会を設ける。読み聞かせを行う。 ○漢字の書き取りテストを毎週行い、定着を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさが全体的に小さく自信がないので、毎日少しずつ全体での話す場面の設定をしていく。 ・「聞く」話を聞くときは、話の中心や自分はどう考えるのかを意識しながら聞くことを指導していく。同時に話す・聞くの切替や聞く姿勢などの学習規律も指導する。 ・「書く」作文や感想などを具体的に書くことができない児童が多い。順序良く書くなど基本的なことを押さえしていく。 ・「読む」読解が苦手な児童が多い。読書の関係に気づかせ、中心となる語や文章を見つづけることを授業の中で行っていく。 ・「言語」漢字の書き方は、誰に書いてしまいう児童が多いので、形を整えて書くことを意識させる。 	
社会				<ul style="list-style-type: none"> ・見学を通して身の回りの方々や町並みに関心をもち、進んで学習に取り組むことができる。 ・写真や地図などの資料を読み取ることで、そこから自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。 ・地図記号や方位等の基礎的・基本的な知識を習得している児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に沿って、「何を」「どのように」指導するのか、明確にする。 ○地図記号や方位などを読み取れるように、一つ一つの資料を丁寧に読み取る時間を確保する。 ○教師から提示する資料を精選し、児童の多様な考えを引き出したり、考えを黒点化したりできるようにする。 ○フラッシュカードなどを継続的に使って基礎的な知識を定着させる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な操作活動を取り入れ、数の感覚を豊かにする。ブロックや敷え棒などの半具体物を用いることで、数の概念の基礎を、直感覚を通して育てる。 ・具体物、言葉、数、図を使って、説明する活動を通して、友達との活動を楽しみ、自分の考えを確かめながら、楽しく生き生きと学習に取り組めるように、数の提示や教材教具を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の最初に、3分間練習の時間をとり、基礎基本を身に付けさせる。 ○友達との考えの交流を経て、問題解決の多様性を共有し、自分の学びに生かせるようにする。また、学習したことがはっきりわかるようなノート作りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下りの加減計算、筆算が確実にできるようにする。 ・かけ算九九が確実にできるようにする。 ・自分の考えを具体物、言葉、数、式、図などを使って説明する力を育てる。 ・課題に対して、自分の考えをもてるようにするとともに、友達と話し合っ解決することができる力を身に付ける。 ・楽しく学習に取り組み、学んだことを生活経験に結び付けて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で問題演習の時間を設け、習熟を図る。 ○あめ、まごめ等、学習の内容を見やすくまとめたノート指導を行う。 ○学年の後半では、ノートに考えを書き、それをもとに話し合うことを大切にし、友達の考えを読み取ったり、解決の方法を考えたりする。 ○数の提示や教材教具を工夫する。算数的な思考が身に付いたり、数や量の感覚が身に付いたりするように、教室環境を工夫する。 ○量の実態に合わせてプリントを用意し、考えをまとめやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少数指導により、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算などの基礎的な力や基礎的な理解力をつける。 ・文章題の内容を正しく読み取る力をつける。 ・既習事項をいかに問題解決する力を伸ばす。 ・自分の考えを図や式・文章で表し、説明し合う力を伸ばす。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合う。 ・2年生との交流を多く取り入れ、他者との関わりを学ばせ、自分自身の成長につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ(色・形・大きさ・数など)自然への気付きに目を向かわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。 ・毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合うとともに、自分の生活と関連させて考えることができるようにする。 ・1年生との交流などを通して、自分自身の成長や他者との関わりを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ(色・形・大きさ・数など)、気付きを実感しながら表現することができるようにする。 ○季節の移り変わりや動植物の様子など、年間を通して具体的な活動を計画する。身近な自然や人と接する機会を多くもち、自分の生活と関連させて考えることができるよう、振り返りや発表の時間を大切に作る。 		
理科				<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習への関心・意欲は高く、興味をもって取り組んでいる。 ・多くの児童が、観察して分かったことなどを具体的に観察カードに記録することが難しかったり、具体的な視点を繰り返し伝えていく。 ・動植物の差異点と共通点を見分けることはほとんどの児童ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察の視点を事前に示し、詳しく観察させる。 ○結果や分かったことを言葉や絵で説明させる。 ○授業の中で、「●●と比べると」という表現の仕方を常に用いて、表裏方法を身に付けさせる。 ○観察したものを大きく絵に描き出すような活動を取り入れることにより、はっきりと分かりやすく記録を取る方法を身に付けさせる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽遊びやリズム遊びを積極的に取り入れて、自然に拍感が身につくようにする。 ・鍵盤ハーモニカでは特に運指を大切にし、5本指が使えるようくり返し指導する。 ・聴く時間をとってから表現するようにし、演奏する曲のイメージやどのように表現したいかのきっかけを作るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身体表現や音楽遊びなどの活動を体験させながら拍の流れやリズムに対する感覚を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音あそびや体を使った活動などは、意欲的に取り組むが、楽しいだけで終わってしまう児童もいる。このように表現したいという思いはもっていても技能面では不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を大切にしながら、基礎基本が定着するような授業を行う。全体での活動だけではなく、ペアでの活動も工夫しながら取り入れて、確かめ合いながら、学習を進めていく。曲の特徴を意識し、どのように表現したいのかを考えて演奏するようにする。また、そのために必要な技能を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取り感じ取ったことを基に対話したり、協働しながら音楽表現を生み出したりする学習を充実させ、学びを深めるようにする。 ・課題提示や振り返りの場面で学習内容と生活の中の音や音楽との関わりに触れ、学習したことを生活に生かす意識をもてるようにする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が身に付くように指導する。 ・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じるとともに、鑑賞の機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせる。 ○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見る価値を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が定着し、思い通りに使えるように指導する。 ・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材に加え、木切れや厚紙・段ボールなどに触れる活動を通して、水彩絵の具やのり・はさみなどの基本的な扱い方が身に付けられるように指導する。 ・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。 ・自他の作品のよさや面白さを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせ、既習の技能については前題材を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。カッターナイフなどの道具も安全に使用できるように安全指導を徹底する。 ○既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見た、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊びのやり方を知り、ルールを工夫して友達とかかわりながら体を動かす機会を増やしていく。 ・補助具などを積極的に活用し、子供たちが安心して、また安全に気をつけて、学習できるようにする。 ・ルールを守っていた児童や運動の仕方を工夫していた児童を取り上げ、称賛し合う場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動として、多様な動きを取り入れた運動遊びを行う。 ○楽しみながら運動量を確保できるように、授業の始めに、固定道具を使用した運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら体をたくさん動かせるような遊びを取り入れていく。 ・安全に気を付けて学習できるようにする。 ・動きのコツを伝える活動を通して、子どもたち同士での学び合いの機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動として、やわらか体操、体ほぐしの運動、多様な動き方を取り入れた運動遊びを継続して行う。 ○楽しみながら運動量を確保できるように、学習の流れを明確にし、素早く安全に準備ができるよう指導する。 ○安全に運動ができるよう、意識をもって学習できるように常に言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して興味・関心があり、意欲的に活動しようとする児童が多い。 ・育てたい力は、以下のものと考えている。 ○友達との関わりを通して、基本的な運動技能を高め合える力。 ○友達と規則を工夫し、協力してゲームをする力。 ○健康によい生活の仕方や体の発育・発達について理解する力。 	
総合				<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心から、自分の調べたい課題を見つけられるよう指導を工夫する。 ・課題についての考えや、まとめにも多様な方法があることを学習する。 ・発表する活動の経験を通じ、自分の発表の力、表現する力をつける。 ・友達と協力して活動を進めることができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに発表し合う等の交流を通して目的意識、相手意識をしっかりとめさせ、聞き手にもわかりやすい情報発信ができるようにする。 	

	4年		5年		6年	
	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話題の中心を常に意識して、話したり聞いたりする力をつけさせる。 ・相手の意見をよく聞き、うなずいたり、共感したりする力をつけさせる。 ・漢字や言葉の基礎的な力、熟語の意味を理解した上で正しく書く力をつけさせる。 ・文章を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・書きたいことを中心に話させ、文章を書く力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話す・聞く」 毎日少しずつ発表活動を取り入れ、様々な場面での話し合い活動の役割を経験させたりする。話を聞いて、発言者に体に向けたうなずいたりできるよう、聞く姿勢を指導する。話を聞くときは、自分はどう考えるのかを意識しながら聞くことを指導する。 ○「書く」 授業中に作文や感想を書かせたり、家庭学習で日記を書かせたりすることで書く経験を増やす。文章を書く際には、基本的な作文用紙の使い方を指導することに加え、はじめ・中・終わりの段落を意識して書くよう指導する。 ○「読む」 問いと答えの文や中心となる語や文を見つけることを大切にしながら授業を展開する。段落相互の関係を考えたり、問いと答えの文章を探したりなどの活動を通して、作者の考え読み取れるようにする。 ○「言語」 漢字の書き方では、雑に書いてしまう児童が多いので、形を整えて書くことを意識させる。学習した漢字は文中で使うよう指導する。 				
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なごみや水道の学習に、意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・写真や地図などの資料を読み取ることや、そこから自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。 ・都道府県の位置や特色、地図記号や方位等の基礎的な知識を習得している児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領に沿って、「何を」「どのように」指導するのか、明確にする。 ○一つ一つの資料を丁寧に読み取る時間を確保し、そこから情報を読み取るくせをつける。 ○教師から提示する資料を精選し、児童の多様な考えを引き出したり、考えを焦点化したりできるようにする。 ○フラッシュカードや都道府県プリントなどを活用し、基礎的な知識を定着させる。 				
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算などの基礎的な力や基礎的内容の理解する力を付ける。 ・数量関係（～は～の何倍か、など）を中心に、文章問題を読み取る力を付ける。 ・既習事項を使いながら問題を解決する力を伸ばす。 ・自分の考えを図や式・文章で表し、説明し合う力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別学習では、児童の実態を把握し、各コースに適した指導の工夫を行う。 ○毎時間の始めに3～5分、既習の計算（四則演算）の練習時間を設ける。 ○ノート指導に力を入れて、既習事項を振り返りやすい状態をつくる。 ○文章問題を解く際には、大切な言葉に印をつけながら読むことで内容を正確に読み取れるようにする。 ○新しい単元に入る際には、関連する既習事項を振り返る時間を設ける。 ○問題を解決する際に、どの既習事項が使えるか考えさせる。また、数直線や線分図などを使って、考えを説明できるようにする。 ○考えの交流をする場面では、よいと思った友達の考えをノートに書かせる。 ○既習事項を振り返るための掲示物を作り、効果的に利用できるよう教室環境を工夫する。 ○習熟度に応じて、授業のまとめを自分の言葉で書かせる。（キーワードをヒントとして与える。） 				
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習への関心・意欲は高く、興味をもって取り組んでいる。 ・観察の際には、観察のための具体的な視点をもてるようにする。 ・予想と結果の比較をし、実験を通してわかったことを自分の言葉でまとめられるようにする。 ・安全に実験に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察の視点を事前に示し、詳しく観察させる。 ○結果や分かったことを言葉や絵で説明させる。 ○授業の中で、「●●と比べると」という表現の仕方を常に用いて、表現方法を身に付けさせる。 ○観察したものを大きく絵に描き出すような活動を取り入れることにより、はっきりと分かりやすく記録を取る方法を身に付けさせる。 ○実験の前に起こりうる危険なことを考えて、どう取り組んだらよいか考える。 				
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○聴き取り感じ取ったことを基に対話したり、協働しながら音楽表現を生み出したる学習を充実させ、学びを深めるようにする。 ○課題提示や振り返りの場面で学習内容と生活の中の音や音楽との関わりに触れ、学習したことを生活に生かす意識をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が聴き取ったこと感じ取ったことを言葉にして共有する機会を多くもつようにし、共通の言葉で思いや意図をもって音楽表現に取り組むことで協働学習を充実させる。 ○表現活動(歌唱・器楽・音楽づくり)では、実際に演奏して試すことを繰り返しながら、思いや意図を膨らませることができるようになる。 ○音楽を味わって聴き、曲や演奏のよさなどを見いだし、学習シートに記録したり、友達と交流して伝え合ったりする。 				
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が身に付くように指導する。 ・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。 ・自他の作品の面白さや楽しさを感じとるように、鑑賞の機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせる。 ○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。 ○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見る価値を知らせる。 				
家庭科						
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して興味・関心があり、意欲的に活動しようとする児童が多い。 ・友達との関わりを通して、基本的な運動技能を高め合えるよう工夫する。 ・友達と規則を工夫し、協力してゲームをする。 ・動きのコツを伝える活動を通して、子どもたち同士での学び合いの機会を設定する。 ・健康によい生活の仕方や体の発育・発達について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との学び合いを通して、基本的な技能や動きを身に付けさせる。 ○自分の能力に適した課題をもって活動を工夫したり、ゲームの規則を工夫したりして、協力し合って活動する力を高める。 ○学習カードを活用し、自分の課題に応じたためあてを明確にもたせることで、運動への意欲を高める。 				
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心から、自分の調べたい課題を見付けられるよう指導を工夫する。 ・課題についての考えや、まとめ方にも多様な方法があることを学習する。 ・発表する活動の経験を積み、自分の発表の力、表現する力をつける。 ・友達と協力して活動を進めることができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに発表し合う等の交流を通して目的意識、相手意識をしっかりとめさせ、聞き手にわかりやすい情報発信ができるようにする。 				